

第7方面隊 第63分団（飽田南） 部長 田代 一洗

（原文）

皆さんこんにちは、第63分団部長の田代一洗です。

僕が生まれ育ったのは、愛知県名古屋市の父親の故郷であるこの熊本市に来たのは8年前のことです。

引っ越してきてすぐ、近所で住宅が全焼する火事があり消防団の人たちが自らを省みず一生懸命に消火活動をしている姿をみてとても感銘を受けました。

当時地元の消防団の部長を僕の従兄弟がしており、その従兄弟に誘われて消防団に入ることになりましたが、それまで消防団というものと関わりがなかったのでどういうものかわかりませんでした。

実際の活動してみると、消火設備の日常的な点検のほか行方不明者の捜索など地域の安全を守る活動を幅広く行い少々大変と思う時もありました。

しかし、年数を重ねるにつれ消防団の活動にも慣れ、また団員にも馴染むことができだんだんと知識や技術が身についていきました。そんな中、去年の小型ポンプ操法大会に出場する機会があり僕は一番やり甲斐があると思った指揮者に立候補し、大役を務めさせてもらうことになりました。

始めは基本的な動作である、「きをつけ、やすめ」などの動作ですらままならず、はたして最後まで消防をやりきれるかどうかもとても不安でした。

また仕事の方も忙しく、上司に理由を言って早く帰らせてもらって練習に駆けつける等し疲れがなかなか抜けない中で、頭を仕事から切り替えて操法に集中することの大変さを感じました。

それでも、出場するからには少しでも上の順位に入りたいと思ったし、また練習の指導・お手伝いをしていただいた消防局職員・消防団OBの皆さんや他の地区の団員の方たちの僕達が上位に入賞できるように一生懸命サポートしてもらいました。

学生の頃に部活で感じたような歯を食いしばる思いを徐々に思い出し、皆さんの期待に応えられるようまた自分自身が納得できるような汗を振り絞り、練習を続けました。操法大会の前日はなかなか眠ることができず、本番はとても緊張しましたが周りの皆さんが我がことのように親身にサポートしてくれたことを思い無我夢中で声を出し、ホースを伸ばし、全力で走り長いようで短い操法競技を終えました。

結果は残念ながら入賞することは出来ませんでした、これまでやった中でベストの結果を出すことができました。

操法競技で学んだ基礎的な規律や器具の使い方などはその後も消防団の活動の至る所で生かすことができることを実感し、自分自身の消防団員としての成長を実感することが出来ました。

その後去年の10月から現在の部長の役職につき操法大会を経験出来ことによる様々な収穫を噛み締めながら日々仲間たちと地域のために汗を流しています。

8年前は右も左もわからなかった地元の町で今では「あは田代さんとこの息子さんだろ」とまで言われるようになりました。消防団を通じて僕はこの第二のふるさとでこれからも仲間と共に地元を守って行きたいと思えます。